

研修5 1 単位時間の授業をつくる

○研修のねらい

「研修5」では、1 単位時間の授業構成の方法や1 単位時間の指導計画のポイント等について学びます。学校や児童の実態に応じた、1 単位時間の学習指導案を作成できるようになることを目指します。

1 単位時間の授業構成の方法

○1 単位時間の授業構成の例

1 単位時間の構成は、まず授業におけるゴールのイメージを描いてから作成するようにします。そのために、この時間ではどのような表現を使ってコミュニケーションを行うかを考え、言語活動を工夫します。

1 目標を決める

児童に「この時間に何を身に付けさせたいのか」を明確にします。

例：「あいさつをしよう！（Hello!）」→相手意識をもって自らすすんで挨拶をする。
→顔を見て言う。はっきり言う。

2 活動の種類を決める

活動は目標に合ったものとします。例えば、聞く活動から模倣して発音する活動、記憶したり、自分の意志で選んで発話したりする活動へと、全体の中で流れるように設定します。

例：“Hello Song”（挨拶の歌）- 「挨拶ゲーム」（隣の人と挨拶）- 「名刺交換ゲーム」（たくさんの友達と挨拶）→コミュニケーション活動へと少しずつ広げる。

3 活動形態を決める

目的に合った活動形態を考えます。

例：「挨拶ゲーム」→2名（相手を意識させるため）

「名刺交換ゲーム」→不特定多数（自らすすんで挨拶をさせるため）

4 具体的な表現を決める

活動で使用する表現を考えます。児童の実態に合わせた表現を選択します。

例：A: What's your name? B: My name is △△.

○授業構成上の留意点

- ・英語での会話を体験させる際は、児童の発達の段階を考慮した表現を用い、児童にとって身近な会話の場面を設定します。
- ・身近で簡単な事柄について、友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワーク等の活動形態を適宜工夫します。その際、相手と意思疎通をとることに苦手意識をもつ児童については、個々の児童の特性に応じて

指導内容や指導方法を工夫します。

- ・児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、学習内容等に応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク等を有効活用し、児童の興味・関心を高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにします。

1 単位時間の指導計画作成のポイント

教師も児童も見通しをもって授業に取り組めるよう、1単位時間（45分）を「ウォームアップ・導入」、「展開」、「まとめ」の三つの活動に分けて段階的に指導します。

○外国語活動の1単位時間の計画例

| 学年：3 | | 単元名：Hello! (小学校第3・4学年外国語活動指導資料 Lesson 1) (第3時) | |
|---------------------------------|--|--|------------------|
| 目標：相手意識をもって、自らすすんで挨拶しようとする。 | | | |
| 準備物：・“Hello Song”のCD ・名刺カード ・音楽 | | | |
| 時間 | ○学習内容 ・児童の活動 | ● HRT(T) ▲ ALT(A) ☆評価 (方法) | ◇教材・教具 |
| 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。“Hello!” ・曜日を言う。 ・今日の天気と言う。 ・“Hello Song”の歌に合わせてジェスチャーをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●ははっきりと話すことができるよう、モデルを示す。 ●▲児童と一緒にジェスチャーを交えて歌う。 <p>歌やチャンツ、2～3分で終わる簡単なゲーム等を行います。</p> | ◇「Hello Song」のCD |
| 15分 | <ul style="list-style-type: none"> ○名前の答え方を知ること。 ・モデルを見て、ゲームのやり方を覚える。 ・「挨拶ゲーム」を行う。 音楽が止まったら、近い人と挨拶をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●▲ HRT と ALT がゲームのモデルを行う。 T: Hello. A: Hello. T: My name is ○○. A: My name is △△. ● (▲) 代表児童とゲームのモデルを行う。 ●音楽を流す。 | ◇音楽 |
| 20分 | <ul style="list-style-type: none"> ○相手の名前を尋ねたり、答えたりすること。 ・カードに名前を書く。 ・モデルを見て、ゲームのやり方を覚える。 ・「名刺交換ゲーム」を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●▲ HRT と ALT がゲームのモデルを行う。 T: Hello. A: Hello. T: What's your name? A: My name is △△. What's your name? T: My name is ○○. T & A: Thank you. (目を見ながら握手をして別れる。) ● (▲) 代表児童とゲームのモデルを行う。 ☆相手意識をもって挨拶をしている。 (行動観察、振り返りカード) | ◇名刺カード |
| 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習の振り返りをする。 ・挨拶をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●次回の外国語活動を楽しみにできるように、余韻を残して終わるようにします。 | ◇振り返りカード |

研修5 1 単位時間の授業をつくる


○事前に準備する物

- ・絵カードや CD、デジタル教材等の研修に応じた教材、教具
- ・研修5「解説編」(P34、35) ・演習シート (P88、89)

○研修の留意点

- ・1 単位時間 (45分) を主に三つの活動 (ウォームアップ・導入、展開、まとめ) に分け、目標に合わせて、活動、形態、教材・教具、時間、ALT との連携等を考えること。

○研修例 (45分)

| 時間 | 研修項目 | 研修内容 | 使用する物 |
|-----|--------------------------------|---|--|
| 10分 | ○単元の構成方法や授業構成上の留意点について、理解すること。 | ○ウォームアップを行う。 ○研修のねらいを伝える。 ○単元構成のルールや1 単位時間の授業構成上の留意点、1 単位時間の指導計画作成のポイントについて説明する。 | ・本書 P34、35 |
| 15分 | ○1 単位時間の指導計画を作成すること。 | ○本時の目標に合わせて、演習シートの展開計画を、作成の視点を基に考える場を設ける。 【活動例】 ・個で考える時間：5分 ・グループで考える時間：10分 (5グループほど) | ・演習シート P88、89 ・教材、教具の具体物 |
| 15分 | ○作成した展開計画を紹介し、情報交換すること。 | ○グループごとに、作成した展開計画を2分程度で紹介する。また、疑問、改善点等を交流する。 |  |
| 5分 | ○研修を振り返ること。 | ○研修の感想を話し合わせる。 | |

○演習シート例

演習：目標に合わせた授業展開を考え、情報交換をします。

- 作成の視点
- ① 目標に合った活動、形態、教材・教具、時間設定を考える。
 - ② HRT（学級担任）の活動と ALT との連携を設定する。

※児童の実態（想定）…前時までに、“Rainbow”の歌や虹の写真を基に、色の表現を学習している。

| 学年：3 | 単元名：My rainbow (小学校第3・4学年外国語活動指導資料 Lesson 4) (2 / 5時) | | |
|--|---|---|--------------|
| 目標：好きな色や好きではない色を“I like ~.”や“I don't like ~.”を使って伝え合おうとする。 | | | |
| 準備物：・“Rainbow”のCD ・色の絵カード | | | |
| 時間 | ○学習内容・児童の活動 | ●HRT ▲ALT の活動 ☆評価（方法） | ◇教材・教具 |
| ウォームアップ・導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 ・カラータッチゲームをする。 ・“Rainbow”を歌う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●色の絵カードを提示する。 ▲T: Let's touch something red. C: (発見したら、タッチして座る。) Red! ※1時間目と同様に行う。 ●色の部分を歌うことができるように、歌に合わせて絵カードを指し示す。 | ◇CD ◇絵カード |
| 展開 | ○自分が見たい虹について友達と伝え合うこと。 | ☆好きな色や好きではない色を“I like ~.”や“I don't like ~.”の表現を使って答えている。 (行動観察) | |
| まとめ | ○学習の振り返りをする こと。 ・挨拶をする。 | | ◇振り返りカード |

児童が楽しみ、資質や能力が身に付く活動を

コラム

外国語教育は、実際に言葉を発したり、友達と活動したりするなど動きのある場面が中心となります。特にゲーム性のある活動を好む児童は多く、外国語教育の中で頻繁に行われています。これらの活動で慣れ親しんだ語彙や表現が、その場で終わってしまうのではなく、その後の活動で生かされる機会も計画する必要があります。

児童がコミュニケーションを楽しみながら、慣れ親しんだ語彙や表現を増やし、コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成する工夫をしていくことが大切です。